

文化庁 地域での文化部活動の在り方についてオンライン座談会

部活動の地域移行に関する 課題と方向性



2021年3月3日

妹尾 昌俊

教育研究家
合同会社ライフ&ワーク 代表
NPO法人まちと学校のみらい 理事
senoom879@gmail.com
<https://senoom.jimdofree.com/>

自己紹介 妹尾 昌俊



- 徳島県出身(いなかの公立小中高で育つ)、神奈川県在住。
趣味は歴史もの(戦国うんちく、旅、ゲーム)、サイクリング、海でSUP。
- 小学生～高校生+0歳児の5人の子育て中～。
- 全国各地の教育現場を訪問して、講演・研修、取材を行っています。
校長、教育長等のご相談にのったりもしています。
- 京都大学大学院(行政学)修了後、野村総合研究所を経て、2016年から独立。
2019年から法人化し、ライフ&ワークを設立。
- 中央教育審議会「学校における働き方改革特別部会」委員、
スポーツ庁と文化庁で部活動ガイドライン検討会議委員、
教育委員会のアドバイザー(横浜市、四日市市、埼玉県、宮崎県など多数)
岐阜市公教育検討会議委員、長野県学校における働き方改革専門家等による
検討会議委員などを歴任。
- Facebook、Twitter、Yahoo!ニュースオーサー(解説記事を書いています)は
妹尾昌俊で検索。お気軽に感想、メッセージなどお願いします。

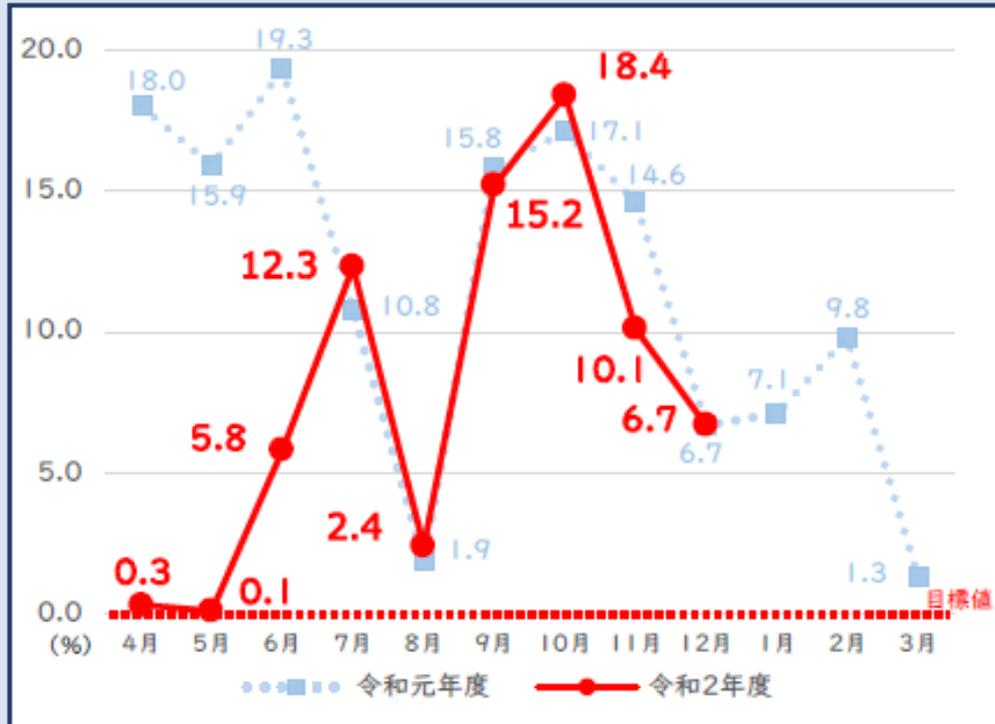
クエスチョン

1. 部活動の地域移行は、**教員の負担軽減のため**なのだろうか？
2. ある中学校、高校の先生の声
「**さまざまな意義のある部活をなぜ**切り離そうとするのか？部活だけ悪者にするな！」
⇒ これをどう考えるか？

日本の先生たちは世界一忙しい。その忙しさはコロナ前に戻りつつある。

項目	目標
時間外勤務月 80 時間超の教職員の割合	0 %

令和 2 年 1 2 月 実績				
平均	小学校	中学校	特別支援学校	高等学校
6.7 %	3.2 %	15.4 %	0.5 %	7.8 %
前年比 ☹️ ±0.0	☹️ +1.8	☹️ -3.4	☹️ -0.1	☹️ -0.1



部活動の地域移行(部活動指導員の配置、民間委託を含む)で期待される効果

1)子どもにとっての影響

- 学校ではできなかった活動ができる。活動の選択肢が広がる。
- その競技や文化活動の専門性の高い指導を受けられる(指導者によるが)。
- 入退部の自由度が増す(強要されにくい)。
- さまざまな価値観をもつ人との交流(ナナメの関係の構築)のなか、成長できる。

2)教職員、学校にとっての影響

- 部活動指導の負担が減る。授業準備など本来業務により時間とエネルギーを割けるようになる。
- 地域との関係性が強まる。部活動以外でも連携しやすくなる。

3)地域にとっての影響

- 地域のスポーツや文化活動が活性化する。指導者も愛好者も増える。
- 地域のなかでの連帯、関係性、ソーシャル・キャピタルが向上し、部活動以外でも役立つ(たとえば、防災・防犯)。
- 地域人材にとって生きがいや健康につながる。
- 民間企業等にとってはビジネスの活性化につながる。

みなさんは、どう考えますか？

1. 部活動の地域移行は、教員の負担軽減のためなのだろうか？
2. ある中学校、高校の先生の声
「さまざまな意義のある部活をなぜ切り離そうとするのか？部活だけ悪者にするな！」
⇒ これをどう考えるか？

- 教員の負担軽減は重要だが、それだけのためではない。
- そもそも、なぜ教員の負担を減らそうとしているかを考えてほしい。
⇒ 学び続ける先生を増やすため、よりよい授業にしていくためでもある。
- 部活に意義、教育効果がある イコール 教員がやらねばならない とは限らない。さまざま人材と関係をもつことが、子どもたちにとってプラスになる可能性もある。
- 教員の役割として重要さが増すのは、部活を直接指導することよりも、部活を含むさまざまな課外活動と教育課程を関連させ、好循環を生み出すことではないか？

【事例】市ヶ尾ユースプロジェクト（市立市ヶ尾中×県立市ヶ尾高×青葉区役所×NPO） 中高生と大人たちの「好奇心」と「志」にスイッチを入れる



- ✓ 実社会のホンモノと出会う、ふれる。
- ✓ 地域でのつながりと信頼ができる。
（ソーシャルキャピタル）
- ✓ 子どもたちの成長は、大人も元気にする！

もちろん、バラ色ではない。

部活動の地域移行で想定される問題、課題

1) 子どもにとっての 影響

- 学校管理下よりも、子どもにとって**過大な負担**となるケースもある。過熱化するなかで、怪我やバーンアウトを誘発するリスクも。
- **暴力、体罰、暴言**など不適切な行動の被害を受けるリスクがある。
- 家庭の負担が高まり(費用や送り迎えなど)、**一部の児童生徒は参加できなくなる**可能性がある。

2) 教職員、学校に とっての影響

- 児童生徒と部活動を通じて**関係性をつくりにくくなる**。
- 教師としての**やりがい**が下がる人もいる。
- 地域との連携・協力がうまくいかず、**もめたりすると、かえって負担は増える**。
- 勤務を離れて、教職員が地域活動として指導にあたることも可能だが、**過労死等のリスクが高まっても、管理・モニタリング**できない。

3) 地域にとっての 影響

- 受け皿となる**地域団体等における負担**は増す(安全管理、会計等)。
- 地域ごとの**差が広がる**。受け皿がたくさんある地域とほとんどない地域と。スポーツ、文化活動等が活性化する地域もあれば、停滞する地域も。とりわけ人口減少地域は、子どもの数減少と相まって、魅力減少か？

【妹尾の著書の紹介】本を読むのも、書くのも好きです！



多くの原点。
元気な学校は何が
ちがうのか。



ビジョンは思った以上に浸透していない。
学校の戦略づくりとコミュニケーションを考える。



多忙の実態を豊富なデータで解説。
働き方改革の基本方針と具体策を提案。



ケースメソッド方式でモチベーションや業務改善について、とても具体的に考えられる一冊。

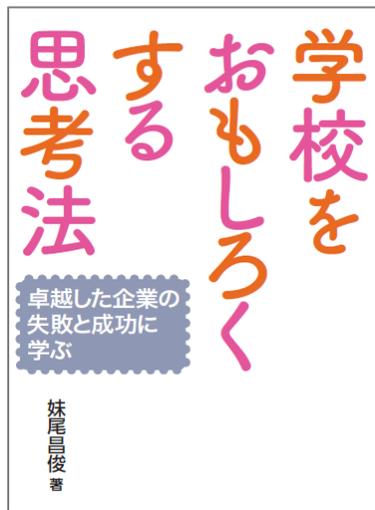


わくわくする学校事務に挑戦する6人のプロたちの仕事への姿勢や仕事術を分析。事務職員の学校運営への参画を具体的に考えていける本。



働き方改革の教科書。学校や教育委員会が行うべきこと、中教審答申とその前後の最新動向を踏まえて解説。

典型的なマズイ事例に陥らないために、どうするか、5大原則を演習問題付きで解説。



企業や行政、イノベーターたちの失敗と成功から、学校や教育行政は何を学べるか。Google、セブンイレブン、スタバ、佐賀県庁など様々な事例を分析。



教師不足、過重労働、社会からの信頼低下など、5つの危機、ティーチャーズ・クライシスを解説。

採用倍率低下は本当に問題なのかなど、データをもとに深層に迫る。